

アシカの繁殖

飼育展示担当 柴田 典弘



出産当日の様子

6月4日早朝、「柴田さん！アシカ生まれてるよ！」。電話を掛けてくれたのは夜間警備担当の職員。朝の巡回で出産に気付いたそうです。気が動転しながらも、10分もかからずに出動する準備を済ませ、午前7時、動物園に到着しました。

私は今年の4月から、初めてアシカを担当することとなった「アシカ初心者」。向かう途中の車内では、アシカ舎到着後に何をすべきなのか、出産に至った最終的な兆候は何であったか等々、頭の中はパニック状態だった気がします。

そして動物園に到着。アシカ舎に急行すると、母スミコが生まれたばかりの小さな赤ちゃんに授乳しているところでした。子供が生まれた際、最も重要な観察ポイントは「授乳の確認」です。その授乳シーンを最初に確認できたことで、その後の飼育手法を冷静

に考えられるようになりました。

その時、フッと気付くと、いつもは強気な父親のマヤが、プールの隅で小さくなっていました。スミコがマヤに対してかなり激しく威嚇したようです。そこで、取り急ぎスミコと赤ちゃんを室内に収容し、しばらくの間マヤと別居させる方法を選択しました。室内に収容する際計測した赤ちゃんの体重は6.3 kg、性別はメスでした。

その後も順調に生育し、6月15日にプールデビュー、8月には愛称が決定、園内投票による834票もの愛称の中から「ナナミ」と名付けられました。

現在は離乳に向けて、魚を食べさせる訓練を実施しています。訓練とはいうものの、一匹の魚を「くわえて、放して、またくわえる」を繰り返すだけで、まだ食べることはできませんが、訓練は「アシカのまんまタイム内」で毎日実施しているので是非見に来て下さい。

最後に、私にとって今回の繁殖は、アシカが一頭増えたに留まらず、アシカを勉強する絶好の機会でもあります。まさしくナナミとともに「成長途上」の担当者ですが、いずれは・・・調教も予定していますのでご期待ください。

サマースクール体験記

サマースクールに参加して

秋田市山王中学校1年 阿部 潤一



説明を熱心に聞く阿部さん(左から2番目)

僕は、7月30日の大森山動物園サマースクールに参加しましたが、いろいろな体験をしたり飼育員の仕事の大変さなどを知ることができ、とてもためになった一日でした。

初めに開会式として動物に対しての心構えや今回のスクールの約束事などを職員の皆さんから聞きました。お話が終わったら、早速飼育体験にチャレンジです！

僕は、チンパンジーの担当です。チンパンジーの世話はもちろん初めてだったので、とてもドキドキです。担当の職員の人からチンパンジーの普段の生活や餌について教えてもらいました。その後、チンパンジーが夜入る部屋の掃除をしました。しかし掃除は意外に難しく大変です。ホースから水を出し、その水で汚れや食べ残しをとるのですが、僕がやっても綺麗にならないけど、職員の人がやると直ぐ綺麗になるので、「やっぱりプロの人は違う」と思いました。その後は、ワ

オキツネザルや鳥っこの水辺のペリカンたちや象などに餌やり体験をしました。

午後の部では、動物関連の工作をしました。僕は、ペンギンの疑卵作りをしました。疑卵とは、セメントで作った本物そっくりの卵で、本物の卵とすり替える必要がある時に使うそうです。職員の方の手作りの卵の型に、セメントを流し入れ固まったら紙ヤスリで形を整えました。僕はセメントが固まるまでの間に、もう一つの工作、シカの角のキーホルダー作りもチャレンジしました。工作が終わった後、閉会式と感想発表があり、僕は疑卵をきれいな形で作ることができたことを発表しました。

その後、職員の方と参加者みんなで撮った写真や修了証、クジャクの羽などをもらい、サマースクールは終了しました。

サマースクールは、普段できない貴重な体験ができ、いろいろなことを学ぶことができました。皆さんも、是非このような機会があったら参加してみてください。

飼育動物数

	種類	点数
哺乳類	63	351
鳥類	57	256
爬虫類	14	42
両生類	4	13
魚類	3	26
合計	141	688

(平成17年8月末現在)

編集後記

4月に、動物の飼育担当から普及企画担当になりました。慣れない仕事に空回りしながらも動物に関わった経験をいかし、動物園の情報をより多くの人に知ってもらい楽しんでもらえるように頑張っています。今回は、沢山のイベントがあり編集に一苦労しました。

千葉 直子